

嘉手納基地への第18航空医療搬送中隊新設及びU-2偵察機の一時移駐に反対する決議

在日米空軍司令部は8月28日に、横田基地の航空医療中隊の解散に伴い、嘉手納基地へ兵員119人とその家族を移駐させると発表した。

さらに9月3日、在韓米空軍オサン基地滑走路の改修工事に伴い同基地所属のU-2偵察機4機と兵員150人を嘉手納基地に一時移駐させると一方的に発表した。

そのほか、在韓オサン基地所属のF-16戦闘機8機も去る9月15日から嘉手納基地に飛来してきた。

全国の75%の米軍基地が沖縄に集中している中で、またしても沖縄が、嘉手納基地が一方的に強化される事は到底納得できるものではない。

医療搬送中隊の新設による航空機の配備はないとのことであるが、搬送業務を行う嘉手納基地のKC-135空中給油機やU-2偵察機の一時的移駐により離着陸回数が、増加すると予想されることから、昼夜を問わず爆音公害に悩まされることが容易に想像できる。

フィリピンの米軍基地からの一時移駐であったはずの第353特殊作戦群が常駐していると言う現実があり、基地周辺の住民としては、U-2偵察機の一時的移駐について警戒するのが当然である。

これら一連の嘉手納基地の動きは、基地機能の強化につながる事であり、基地周辺住民は、基地から派生する事件、事故、さらに航空機の爆音公害の増加が予想される事に対して、もうこれ以上我慢はできるものではない。

我々は、基地機能の強化につながる事に対しては、その都度嚴重に抗議してきたが、益々増大が予想される基地被害に対して、これ以上容認することができない。

よって本町議会は、町民の生命、安全、生活環境を守る立場から、基地機能の強化につながる一切のものに対して断固反対するものである。

以上決議する。

あて先

駐日米国大使、在日米軍司令官、在沖米四軍調整官、在沖米国総領事、
嘉手納基地第十八航空団司令官

平成15年9月29日
沖縄県中頭郡北谷町議会